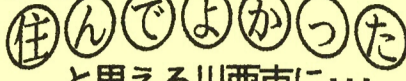


暮らし・福祉・教育優先の市政をめざして

みんなが



と思える川西市に...

たんぽぽだより

日本共産党川西市議会議員 黒田みち

市会議員団控え室 TEL 740-1111 (内線4020)

直通FAX 759-1811

黒田みち事務所 TEL 795-4760

たんぽぽだよりブログ

http://kurodemich.exblog.jp



4テーマで討論

病院職員の大量退職で維持できるのか？

情報公開と説明責任に期待、市民の願い実現する市政に

黒田・12月議会で取り上げたテーマ

- ① 「総合医療センター構想(案)」の市民への情報提供と説明責任の徹底
- ② 「市清掃事務所整備工事」の安全・安心対策
- ③ 国民健康保険・介護保険事業の市の改善策
- ④ 保育所待機児童の解消と地域の子育て支援

問 これまで決まったことは、

答 2019年4月から現病院の管理・運営を協和会が担うこと。

問 白紙撤回しない「説明する」

答 (市長) 公約にも掲げたが、議会で決めたことでもあり、白紙撤回はしない。(98億円もの)大幅なコスト増については検証が必要。市民の不安には、よりていねいに説明していく。

問 パブリックコメントの結果、報告を伝える市民説明会を行うべき。

答 市長を含め丁寧に説明会を行う。

問 用地が不足した。それも含めて協力していただく。しっかりと土地を確保し、協和会とは基本は20年契約だが、未永く維持していきたい。

答 市から協和会に払うお金は「救急・周産期・小児の政策医療」への国の交付金算定額のみ。

(# `D `) ベッド削減
川西市で 203 ベッド
三田市で 168 ベッド
伊丹市で 250 ベッド？！

高齢化で本来必要とされる全国の病床数を2025年時点で33万床も少なくする「地域医療計画」の実現に向け、安倍自公政権は来年度末までに各地域の調整会議で病床再編計画に合意した割合を50%に引き上げる目標を決めました。

2017年3月までに地域医療構想をつくらせ、統廃合や機能転換を進めてきましたが、合意済の病床数は19%(9月末)。それを50%にするための更なるアメとムチ政策。

新市長・新市議になって初めての12月議会がスタート。私は越田新市長が公約に掲げた「情報公開と説明責任、市民の声を聴く」ことの徹底に期待を表明しつつ、私自身も「住民の実態に学び、住民の声や願いをしっかりと受け止め、住民の要求実現にむけて全力で取り組む」決意を述べ、4つのテーマで討論しました。(市議会ホームページ・議会議中継でご覧いただけます)

立ち止まる考えはないか

川西病院問題の最初に私は、一昨年5月1日の突然の発表以来、市民に十分な説明のないまま、突き進んでいることを指摘し、市民への情報提供と説明責任の徹底を求めるとともに、問題点が数多く出ている中で、「いったん白紙に戻している中で、

9月の説明会は、たった5か所。2時間でさつさと打ち切る。様々な疑問を情報公開しても黒塗り資料。知りたい情報が提供されず、市民が知りたい情報にされていない。協働と参画の条例に則って現状を是正すべきだ。355億円もの巨額の借金をすることを知らない市民がまだまだいる。拙速に進めず、

止まる考えはないか」とただしました。

パブリックコメント分析これから

問 構想(案)に対するパブリックコメント・市民意見は10月1日に募集が終わったばかり。意見集約の結果公表もこれから。市民の間には「もう決まってるんでしょ」との気分もあるが、市からの情報提供が少なすぎるからだ。

問 診療態勢維持を前提にスタッフを確保する。約半数が退職を希望されているが、協和会からの職員の派遣と来年4月の採用を準備中だ。

答 紹介状がない場合の初診料(2160円)や入院時のウエア・オシメ代・個室代・駐車場代などの患者負担は変えない。

協和会とは未永く

問 医療ゾーンに協和会の土地を借りる計画だが協和会としてらみ続けることにならないか。

答 用地が不足した。それも含めて協力していただく。しっかりと土地を確保し、協和会とは基本は20年契約だが、未永く維持していきたい。

答 市から協和会に払うお金は「救急・周産期・小児の政策医療」への国の交付金算定額のみ。

市北部で入院・手術ができる二次救急病院がなくなることは大問題です。大きな自然災害が起こる可能性が高くなっている今、病院を集中させるのではなく分散、リスク回避をすべきです。一方、「構想」には数多くの難題があります。情報公開、丁寧な説明を求め、慎重に検討する必要があります。

議員選挙が終わり、初めての一般質問。今回、18名の議員がそれぞれ行いました(12月4日、6日)。連日20名を超える傍聴者が来られ、関心の高さが伺えました。



伊丹市でも三田市でもベッド削減・統廃合

複数の医療機関が再編・統合、病床削減すれば「地域医療介護総合確保基金」としてお金を優先配分。公立・公的病院などは、今年度末までに合意させる目標。本来なら、高齢化でベッドが必要になるにも関わらず、まずは統廃合・ベッド削減計画を推進。政府の言うことを聞けば自治体にお金が入る・・・国民の実態を無視したひどい押し付け政策です。

川西市の構想(案)では、川西病院と協立病院の統廃合で市内ベッドが203床減。三田市では、市民病院と神戸市北区済生会病院の統廃合で168ベッド削減、伊丹市では市民病院と近畿中央病院の統廃合で250~350ベッド削減の答申が出されようとしています。地域医療の確保方策も決めず、「2次救急病院統廃合・ベッド削減先行」で突き進む根本・国・川西の政治を変えましょう。